

豚肉情勢

3月7日 更新 JA全農ミートフーズ株式会社

項目	内容	備考																																																																
供給	1.国産	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">国内生産量の推移</th> <th colspan="3">農水省出荷予測 (千頭:%)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">国内出荷頭数</th> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">出荷予測</th> </tr> <tr> <th>千頭</th> <th>前年比</th> <th>頭数</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>16,338</td> <td>98.3</td> <td>R4年 2月</td> <td>1,309</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>16,429</td> <td>100.6</td> <td>R4年 3月</td> <td>1,444</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>R1年</td> <td>16,320</td> <td>99.3</td> <td>R4年 4月</td> <td>1,386</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>16,686</td> <td>102.2</td> <td>R4年 5月</td> <td>1,326</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>R3年 10月</td> <td>1,417</td> <td>95.7</td> <td>R4年 6月</td> <td>1,308</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>R3年 11月</td> <td>1,504</td> <td>103.5</td> <td>R4年 7月</td> <td>1,316</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>R3年 12月</td> <td>1,510</td> <td>99.4</td> <td colspan="3">※令和4年2月24日更新</td> </tr> <tr> <td>R4年 1月</td> <td>1,430</td> <td>100.8</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	国内生産量の推移			農水省出荷予測 (千頭:%)			暦年	国内出荷頭数		暦年	出荷予測		千頭	前年比	頭数	前年比	H29年	16,338	98.3	R4年 2月	1,309	98	H30年	16,429	100.6	R4年 3月	1,444	95	R1年	16,320	99.3	R4年 4月	1,386	96	R2年	16,686	102.2	R4年 5月	1,326	101	R3年 10月	1,417	95.7	R4年 6月	1,308	97	R3年 11月	1,504	103.5	R4年 7月	1,316	100	R3年 12月	1,510	99.4	※令和4年2月24日更新			R4年 1月	1,430	100.8			
	国内生産量の推移			農水省出荷予測 (千頭:%)																																																														
暦年	国内出荷頭数		暦年	出荷予測																																																														
	千頭	前年比		頭数	前年比																																																													
H29年	16,338	98.3	R4年 2月	1,309	98																																																													
H30年	16,429	100.6	R4年 3月	1,444	95																																																													
R1年	16,320	99.3	R4年 4月	1,386	96																																																													
R2年	16,686	102.2	R4年 5月	1,326	101																																																													
R3年 10月	1,417	95.7	R4年 6月	1,308	97																																																													
R3年 11月	1,504	103.5	R4年 7月	1,316	100																																																													
R3年 12月	1,510	99.4	※令和4年2月24日更新																																																															
R4年 1月	1,430	100.8																																																																
2.輸入	<p>○ 令和4年1月の全国の肉豚出荷頭数は1,430千頭(前年比100.8%)と前年並みとなった。1月の地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道101.7%、東北101.1%、関東98.4%、北陸甲信越98.7%、東海104.0%、近畿111.4%、中四国102.8%、九州・沖縄101.7%となっている。</p> <p>○ 令和4年1月の全国と畜頭数は速報値で1,257千頭(2/28まで集計)で、前年同月比94.0%と前年を下回る見込みである。稼働日数は昨年と同一ながら、1日当たりの平均と畜頭数は69,822頭(前年実績:74,271頭/日、前年差△4,449頭/日)と減少した。</p> <p>○ 農水省食肉鶏卵課の令和4年2月24日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和4年3月1,444千頭(同95%)、4月1,386千頭(同96%)、5月1,326千頭(同101%)、6月1,308千頭(同97%)、7月1,316千頭(同100%)で今後5か月間合計頭数で前年比約98%と前年をわずかに下回ると予測となっている。</p> <p>○ 令和4年1月の輸入通関実績は豚肉全体で82.6千ト(前年同月比123.9%、前月比110.8%)となった。内訳は、チルドが39.0千ト(前年同月比116.2%、前月127.2%)、フローズンは43.6千ト(同131.6%、同99.4%)で、チルド・フローズンともに前年を大幅に上回った。原因は、チルドはカナダの洪水の影響で入船が遅れた前月の繰越しの入荷、フローズンは中国の買い付けが弱まった欧州産の増加による。主な国別では、チルドは米国19.2千ト(前年同月比120.4%)、カナダ18.0千ト(同112.2%)、メキシコ1.7千ト(同112.2%)となり、フローズンはスペイン13.9千ト(同181.0%)、メキシコ7.9千ト(同133.9%)、デンマーク5.7千ト(同92.3%)、カナダ2.9千ト(同154.2%)、米国2.6千ト(同89.7%)と、チルドでは米国・カナダ、フローズンではスペイン・メキシコの増加が目立つ。</p> <p>○ (独)農畜産業振興機構が2月24日に公表した豚肉の需給予測では、2月の輸入量について、チルドは前年が北米からの入船遅れの影響で数量が落ち込んだため、かなりの程度上回るとともに、フローズンも中国の買い付けが弱まったために値下がりした欧州産の増加のため前年をかなり大きく上回り、合計でも前年をかなりの程度上回る予測である。また、3月の輸入量について、チルドは前年の輸入量が入船遅れの品物の入荷で増加したため大幅に下回り、フローズンはコロナ禍の外出需要の減退で前年の輸入量が低水準に留まったため、かなり大きく上回り、合計では前年をわずかに下回る見通しである。このため3か月平均では、チルドは前年をわずかに上回り(前年比101.4%)、フローズンは前年を大幅に上回り(同117.7%)、輸入量全体で前年をかなりの程度上回る(同109.0%)増加傾向となっている。</p>	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">輸入量の推移</th> <th colspan="2">財務省:通関実績</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">輸入数量</th> <th colspan="2">チルド数量</th> </tr> <tr> <th>ト</th> <th>前年比</th> <th>ト</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>932,048</td> <td>108.2</td> <td>398,847</td> <td>112.2</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>924,971</td> <td>99.2</td> <td>406,752</td> <td>102.0</td> </tr> <tr> <td>R1年</td> <td>958,963</td> <td>103.7</td> <td>407,360</td> <td>100.1</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>891,807</td> <td>93.0</td> <td>416,334</td> <td>102.2</td> </tr> <tr> <td>R3年 10月</td> <td>77,929</td> <td>107.5</td> <td>33,556</td> <td>95.6</td> </tr> <tr> <td>R3年 11月</td> <td>78,525</td> <td>111.3</td> <td>34,153</td> <td>88.6</td> </tr> <tr> <td>R3年 12月</td> <td>74,543</td> <td>104.2</td> <td>30,629</td> <td>83.1</td> </tr> <tr> <td>R4年 1月</td> <td>82,587</td> <td>123.9</td> <td>38,950</td> <td>116.2</td> </tr> </table>	輸入量の推移		財務省:通関実績		暦年	輸入数量		チルド数量		ト	前年比	ト	前年比	H29年	932,048	108.2	398,847	112.2	H30年	924,971	99.2	406,752	102.0	R1年	958,963	103.7	407,360	100.1	R2年	891,807	93.0	416,334	102.2	R3年 10月	77,929	107.5	33,556	95.6	R3年 11月	78,525	111.3	34,153	88.6	R3年 12月	74,543	104.2	30,629	83.1	R4年 1月	82,587	123.9	38,950	116.2											
輸入量の推移		財務省:通関実績																																																																
暦年	輸入数量		チルド数量																																																															
	ト	前年比	ト	前年比																																																														
H29年	932,048	108.2	398,847	112.2																																																														
H30年	924,971	99.2	406,752	102.0																																																														
R1年	958,963	103.7	407,360	100.1																																																														
R2年	891,807	93.0	416,334	102.2																																																														
R3年 10月	77,929	107.5	33,556	95.6																																																														
R3年 11月	78,525	111.3	34,153	88.6																																																														
R3年 12月	74,543	104.2	30,629	83.1																																																														
R4年 1月	82,587	123.9	38,950	116.2																																																														
需要	1.家計消費	<p>○ 総務省発表の令和3年12月期家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,921g(前年同月89.6%)、支出金額が2,808円(同93.1%)となり、購入量・金額ともに前年を下回った。(※前々年度同月比:購入量102.0%、金額104.6%)</p> <p>○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,171億円(前年同月比97.3%、既存店ベース95.8%)と前年同月を下回った。年始は和牛等の高単価商品や大型パックが好調であったが、需要はすぐに落ちつき、販売数量は減少傾向となった。</p> <p>○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は932.6億円(店舗調整後で前年同月比98.2%)となり、前年をわずかに下回った。前月に続き鶏卵は好調、新型コロナ感染症の感染者拡大で保存性に優れたハム・ソーセージ類の荷動きが回復する一方、牛肉・豚肉・鶏肉の需要鈍化が報告されている。</p> <p>○ 2月の荷動きは、新型コロナ感染症の感染者拡大で外出需要は低迷しているものの、肉食需要は底堅く堅調となっている。特に、厳しく冷え込む気候が続いているため、前月に続き鍋需要は好調が続いており、国産物・冷蔵はスライス用のバラ、切り落とし用のモモの引き合いが強く、カトロース・ウデがそれに続く。ロースは前月に続き低調で、スノコ・挽き材は感染拡大による休校等の広がりで給食需要は低迷し、鈍い荷動きとなった。国産物・冷凍品は、前月に続き、締った需給が続く、バラを中心に堅調な荷動となった。一方、輸入品・チルドはベリーの引き合いが強いが、他の部位の目立つ荷動きはなく、不安定な入荷状況が続いている。輸入品・フローズンは外出需要の失速が大きく影響して、荷動きは鈍化したままで、依然として足踏み状態が続いている。</p>	<table border="1"> <tr> <th colspan="5">家計消費量 (ト, 円, %)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="4">全国1世帯当たり</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <th>前年比</th> <th>金額</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>20,785</td> <td>101.7</td> <td>30,025</td> <td>101.8</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>21,514</td> <td>103.5</td> <td>30,591</td> <td>101.9</td> </tr> <tr> <td>H31年</td> <td>21,178</td> <td>98.4</td> <td>29,637</td> <td>96.9</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>22,973</td> <td>108.5</td> <td>32,861</td> <td>110.9</td> </tr> <tr> <td>R3年 10月</td> <td>1,955</td> <td>102.1</td> <td>2,690</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>R3年 11月</td> <td>1,841</td> <td>95.9</td> <td>2,670</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td>R3年 12月</td> <td>1,921</td> <td>89.6</td> <td>2,808</td> <td>93.1</td> </tr> </table>	家計消費量 (ト, 円, %)					暦年	全国1世帯当たり				数量	前年比	金額	前年比	H29年	20,785	101.7	30,025	101.8	H30年	21,514	103.5	30,591	101.9	H31年	21,178	98.4	29,637	96.9	R2年	22,973	108.5	32,861	110.9	R3年 10月	1,955	102.1	2,690	97.8	R3年 11月	1,841	95.9	2,670	97.2	R3年 12月	1,921	89.6	2,808	93.1														
	家計消費量 (ト, 円, %)																																																																	
暦年	全国1世帯当たり																																																																	
	数量	前年比	金額	前年比																																																														
H29年	20,785	101.7	30,025	101.8																																																														
H30年	21,514	103.5	30,591	101.9																																																														
H31年	21,178	98.4	29,637	96.9																																																														
R2年	22,973	108.5	32,861	110.9																																																														
R3年 10月	1,955	102.1	2,690	97.8																																																														
R3年 11月	1,841	95.9	2,670	97.2																																																														
R3年 12月	1,921	89.6	2,808	93.1																																																														
2.小売動向 1月概況	<p>○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の1月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,171億円(前年同月比97.3%、既存店ベース95.8%)と前年同月を下回った。年始は和牛等の高単価商品や大型パックが好調であったが、需要はすぐに落ちつき、販売数量は減少傾向となった。</p> <p>○ 日本チェーンストア協会が公表した1月販売概況によると、畜産品の売上は932.6億円(店舗調整後で前年同月比98.2%)となり、前年をわずかに下回った。前月に続き鶏卵は好調、新型コロナ感染症の感染者拡大で保存性に優れたハム・ソーセージ類の荷動きが回復する一方、牛肉・豚肉・鶏肉の需要鈍化が報告されている。</p> <p>○ 2月の荷動きは、新型コロナ感染症の感染者拡大で外出需要は低迷しているものの、肉食需要は底堅く堅調となっている。特に、厳しく冷え込む気候が続いているため、前月に続き鍋需要は好調が続いており、国産物・冷蔵はスライス用のバラ、切り落とし用のモモの引き合いが強く、カトロース・ウデがそれに続く。ロースは前月に続き低調で、スノコ・挽き材は感染拡大による休校等の広がりで給食需要は低迷し、鈍い荷動きとなった。国産物・冷凍品は、前月に続き、締った需給が続く、バラを中心に堅調な荷動となった。一方、輸入品・チルドはベリーの引き合いが強いが、他の部位の目立つ荷動きはなく、不安定な入荷状況が続いている。輸入品・フローズンは外出需要の失速が大きく影響して、荷動きは鈍化したままで、依然として足踏み状態が続いている。</p>																																																																	
2月概況	<p>○ 2月の荷動きは、新型コロナ感染症の感染者拡大で外出需要は低迷しているものの、肉食需要は底堅く堅調となっている。特に、厳しく冷え込む気候が続いているため、前月に続き鍋需要は好調が続いており、国産物・冷蔵はスライス用のバラ、切り落とし用のモモの引き合いが強く、カトロース・ウデがそれに続く。ロースは前月に続き低調で、スノコ・挽き材は感染拡大による休校等の広がりで給食需要は低迷し、鈍い荷動きとなった。国産物・冷凍品は、前月に続き、締った需給が続く、バラを中心に堅調な荷動となった。一方、輸入品・チルドはベリーの引き合いが強いが、他の部位の目立つ荷動きはなく、不安定な入荷状況が続いている。輸入品・フローズンは外出需要の失速が大きく影響して、荷動きは鈍化したままで、依然として足踏み状態が続いている。</p>																																																																	
3.加工肉仕向量	<p>○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の令和3年12月の豚肉加工品仕向量は34.0千ト(前年同月比102.4%)と、前年をわずかに上回った。内訳は、国内物6.7千ト(前年同月比102.4%)・輸入物27.3千ト(同102.4%)で、国内物・輸入物ともに前年をわずかに上回った。なお、上記仕向量とは別枠のシーズドポークは10.7千ト(前年同月比99.4%)と、ほぼ前年並みとなっている。</p>																																																																	
在庫	<p>○ (独)農畜産業振興機構が2月24日に公表した豚肉の需給予測によると令和4年1月末の推定期末在庫量は177.3千ト(前年比97.1%、前月比105.2%)となり、前年をわずかに下回った。内訳は、輸入品の在庫が154.0千ト(前年比96.2%、前月比105.7%)、国産物が23.2千ト(前年比103.5%、前月比101.3%)となり、輸入品は前年実績を下回り、国産品は前年実績を上回った。同機構によれば、国産品と輸入品を合わせた今後の期末在庫の推移は、2月が173.8千ト(同94.3%)、3月は160.2千ト(同88.0%)と、いずれも前年を下回って推移するものと予測している。</p>																																																																	
枝肉相場	1.R4年2月速報値	<p>○ 令和4年2月の東京食肉市場枝肉相場は速報値(2/28時点)で511円/kg(前年比102.5%)と前年を上回った。上旬は新型コロナウイルスの感染者の増加で外出需要が低調となるなか、市況は400円台後半から500円台の保合いの展開となった。中旬は全国の出荷頭数が7万頭を下回り、6万頭台に減少する中、保合いから強含みに転じ、下旬は祝日の影響で稼働日が少なく全国の出荷頭数は7万頭を超える日が続いたものの、底堅い肉食需要により相場は続伸した。これにより、東京「上」は、3か月連続で500円を超える月間平均価格となり、出荷頭数不足と底堅い肉食需要により堅調な推移が続いている。</p> <p>○ 農水省食肉鶏卵課の令和4年2月24日付肉豚生産出荷予測の令和4年3月出荷予測頭数は1,444千頭(前年同月比95%)と前年をやや下回る出荷頭数となっている。3月は地域によってまん延防止等重点措置が継続し、不透明な需要動向が続くなか、北日本を中心とした悪天候の影響で増体不良による出荷頭数不足が懸念されること、および北米での生産遅れや港湾混雑といった輸入品の不安定な供給状態が継続することから、弱含みながら堅調な相場展開が予測される。なお、出荷頭数や新型コロナウイルスの影響に伴う行政対応等による相場への影響には引き続き注視が必要である。</p> <p><相場予想: 東京市場、税込み> R4年1月実績 R4年2月速報値 R4年3月予測 R4年4月予測</p> <p>【上物】(前年比) 506円(101.8%) 511円(102.5%) 510円(106%) 520円(105%)</p>	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">加工品仕向量</th> <th colspan="2">市況の推移(東京市場)* 税込み</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">加工品仕向量</th> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">豚枝肉「上物」</th> </tr> <tr> <th>千ト</th> <th>前年比</th> <th>円/kg</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>376.6</td> <td>101.6</td> <td>H29年</td> <td>569</td> <td>108.6</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>376.6</td> <td>100.0</td> <td>H30年</td> <td>518</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>R1年</td> <td>372.1</td> <td>98.8</td> <td>R1年</td> <td>524</td> <td>101.2</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>376.7</td> <td>101.2</td> <td>R2年</td> <td>561</td> <td>106.9</td> </tr> <tr> <td>R3年 9月</td> <td>34.6</td> <td>114.8</td> <td>R3年11月</td> <td>493</td> <td>92.8</td> </tr> <tr> <td>R3年 10月</td> <td>31.6</td> <td>97.2</td> <td>R3年12月</td> <td>578</td> <td>108.0</td> </tr> <tr> <td>R3年 11月</td> <td>36.0</td> <td>107.4</td> <td>R4年1月</td> <td>506</td> <td>101.8</td> </tr> <tr> <td>R3年 12月</td> <td>34.0</td> <td>102.4</td> <td>R4年2月速報値</td> <td>511</td> <td>102.5</td> </tr> </table>	加工品仕向量		市況の推移(東京市場)* 税込み		暦年	加工品仕向量		暦年	豚枝肉「上物」		千ト	前年比	円/kg	前年比	H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6	H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0	R1年	372.1	98.8	R1年	524	101.2	R2年	376.7	101.2	R2年	561	106.9	R3年 9月	34.6	114.8	R3年11月	493	92.8	R3年 10月	31.6	97.2	R3年12月	578	108.0	R3年 11月	36.0	107.4	R4年1月	506	101.8	R3年 12月	34.0	102.4	R4年2月速報値	511	102.5	
	加工品仕向量		市況の推移(東京市場)* 税込み																																																															
暦年	加工品仕向量		暦年	豚枝肉「上物」																																																														
	千ト	前年比		円/kg	前年比																																																													
H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6																																																													
H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0																																																													
R1年	372.1	98.8	R1年	524	101.2																																																													
R2年	376.7	101.2	R2年	561	106.9																																																													
R3年 9月	34.6	114.8	R3年11月	493	92.8																																																													
R3年 10月	31.6	97.2	R3年12月	578	108.0																																																													
R3年 11月	36.0	107.4	R4年1月	506	101.8																																																													
R3年 12月	34.0	102.4	R4年2月速報値	511	102.5																																																													
2.予測 R4年3月	<p>○ 農水省食肉鶏卵課の令和4年2月24日付肉豚生産出荷予測の令和4年3月出荷予測頭数は1,444千頭(前年同月比95%)と前年をやや下回る出荷頭数となっている。3月は地域によってまん延防止等重点措置が継続し、不透明な需要動向が続くなか、北日本を中心とした悪天候の影響で増体不良による出荷頭数不足が懸念されること、および北米での生産遅れや港湾混雑といった輸入品の不安定な供給状態が継続することから、弱含みながら堅調な相場展開が予測される。なお、出荷頭数や新型コロナウイルスの影響に伴う行政対応等による相場への影響には引き続き注視が必要である。</p> <p><相場予想: 東京市場、税込み> R4年1月実績 R4年2月速報値 R4年3月予測 R4年4月予測</p> <p>【上物】(前年比) 506円(101.8%) 511円(102.5%) 510円(106%) 520円(105%)</p>																																																																	